



ふれあいひろば

〔患者とともにある全人的医療〕

新潟市民病院
広報委員会



コロナ禍の意外な側面

呼吸器内科 阿部徹哉

新型コロナウイルス感染症は、2019年12月中国武漢市での集団感染に端を発し、急速に全世界に拡大しました。日本では2020年1月16日に初めて感染者が確認され、それ以降流行の波を繰り返し、2022年5月には国内の死亡者数が3万人を超えました。行動制限によって私たちの生活様式も大きく変化し、2022年7月4日時点では少し緩和されつつあるものの、マスクの着用や旅行・イベントの制限など、コロナ禍前には想像もしていなかったようなことが、今では当たり前のことになっています。このように私たちの生活を一変させてしまった新型コロナウイルス感染症ですが、意外な側面も指摘されています。

図は2017年を基準とした日本の死亡数の増減を示したグラフです。日本では人口の高齢化によって総死亡数は毎年2万人程ずつ増えてきていましたが、コロナ禍の始まりである2020年に、総死亡数は前年に比べて8千人以上減少しました。総死亡数が減少するのは11年ぶりのことです。この年には、新型コロナウイルス感染症によって3,466人の方が亡くなりましたが、一方で肺炎による死亡数は前年に比べて17,000人以上少なく、総死亡数が減少した大きな理由と

考えられます。2021年には新型コロナウイルス感染症による死亡数は16,756人に増加し、総死亡数も元の増加傾向に戻っているように見えますが、がん・心疾患・脳血管疾患のいわゆる三大疾病の死亡数にはそれほど変化がみられず、この年に最も増加した死因は老衰でした。肺炎による死亡数は2020年よりさらに減少しており、高齢者の死因の多くを占める肺炎が減少し、病気でなく老衰が原因でお亡くなりになる高齢者が増加したということを反映しているものと考えられます。この現象は新型コロナウイルスに対する感染予防策が、肺炎の予防や死亡数の減少にも有効であることを示すものと考えられ、コロナ禍によってもたらされた教訓とも言えます。

自分自身のことを振り返ると、出張や宴会の機会が減り(というよりほとんど無くなり)、コロナ禍前に比べると、とても規則正しい生活を送っていることを実感しています。まだまだ新型コロナに翻弄される毎日ではありますが、皆さんもこのように異なる側面を見つけてみてはいかがでしょうか。

参考資料:厚生労働省 人口動態調査

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/81-1a.html>



産科スクリーニングエコー外来

産婦人科 上村直美

現代の産科診療にエコー検査は、なくてはならない検査ですが、いつ頃から使用されるようになったかご存知ですか？産婦人科領域でエコー検査が用いられるようになったのは1960年代です。当初は『これはきっと胎児の頭だろう、胎児がいる。』という程度の検査であったといいますが、その後の技術革新のスピードは目を見張るものがあります。

現在のエコー検査は、汎用される2次元モード(2D:見たい断面像が見え、その動きも見える)に加え、1990年代からは3次元モード(3D:立体像)、4次元モード(4D:立体像がリアルタイムに動く)も普及しています。

当院の産科では、2019年6月に『産科スクリーニングエコー外来(産科エコー外来)』を開設し、この3年間で延べ876人の患者さんが受診されています。毎週月曜日の午前と午後に一人あたり30分の予約時間を設けて行っています。広義には出生前診断の1つに当たるため、当院に通院中の患者さんで、ご説明してご希望のある方が対象で、妊娠28週前後(双胎は24週前後)に行っています。もちろんいつもの妊婦検診でもエコーを行っていますが、そちらは通常超音波検査であり、胎児の向きや発育、羊水量、必要な場合には胎盤の位置など、一般的な項目を中心にエコーを行います(その通常超音波検査で

も胎児疾患が明らかとなる事はもちろんあり、状況に応じて精査・ご説明をしています)。産科スクリーニングエコー外来では、特に胎児の心臓の構造など、通常の外来では時間をかけてみるのが難しい項目を含め、精度の良いエコー機器を用いて、2Dモードで検査をしています。

例えば、心臓に限って説明しますと、先天性心疾患の確率は約0.8%といわれています。出生後1年以内に自然に閉鎖する心臓の壁の小さな穴～出生後早期に処置や手術が必要になるものまで程度は様々です。事前に把握する事で、小児循環器が専門の医師とも検討でき、それに応じた準備をしたい、というのが検査の目的です。

一方で、エコー検査は形態やその動きで判断するもので、エコーで判断できないといわれている胎児の病気ももちろん存在しており、万能ではありません。

エコー検査の最後には、胎児の向きなどで可能であれば、3D、4Dエコーも短時間ですが追加しています。普段のエコーでは見ることはできない胎児の表情を見て頂けます、コロナ禍で一緒に妊婦検診に来院することが出来ない御家族にも、持ち帰ったエコー写真を見て頂いて、御家族でのお子様への愛情形成の一助となればと思っています。

写真は、当院産科エコー外来を受診され、ご出産された患者様の4Dエコーです。その場ではこの画像がさらに動いています(患者様の承諾の元、掲載致しました)。



東曽野木小学校の皆さんから 素敵な贈り物をいただきました



4月下旬、東曽野木小学校の児童の皆さんから素敵な贈り物をいただきました。同校からのプレゼントは毎年恒例であり、本来であれば、児童代表が来院され、直接作品を授与してくださるはずでした。

ところが、本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、楽しみにしていた行事はやむなく中止となりました。このたび先生が代わりに作品をご持参くださったことから、無事に受け取ることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

いただいた贈り物について少しご紹介します。

作品は二種類あり、一つは、1年生から6年生

が、学年やクラスの垣根をこえて協力しあいながら作り上げたもので、遠足で訪れた公園の落ち葉や学校で栽培している花を押し花にして飾ったメッセージカードです。もう一つは、1年生が自分の似顔絵を描き、その笑顔にさそわれて見る人も笑顔になってほしいと願いがこめられた作品です。

心温まるメッセージとキュートな笑顔に日々癒されます。

院内のさまざまなところに掲示していますので、お楽しみください。

登録医の紹介

【医 院 名】 もたい内科クリニック

【住 所】 〒950- 0914
新潟市中央区紫竹山1丁目7-5

【代 表 者 名】 院長 罇 陽介

【診 療 科 目】 内科、消化器内科

【電 話 番 号】 025-240-5050

【診 療 時 間】

月・火・木・金 午前 9:00～12:30
午後 15:00～18:00
水・土 午前 9:00～13:00

休診日：日曜、祝日



【特 徴 と 診 療 方 針】

地域に密着したかかりつけ医として、病気の予防・早期発見、健康の維持、病気の治療に寄与できるよう努めたいと思っています。

一般内科診療はもちろんのこと、専門的な消化器診療まで幅広く、質の高い診療を行っています。胃カメラ、大腸カメラともに毎日施行可能な体制を整えております。

【ホームページ】

<https://www.motai-clinic.jp>



新型コロナウイルス感染症に伴うお知らせは、新潟市民病院のホームページで随時更新しております。

<https://www.hosp.niigata.niigata.jp>

当院のホームページにも、
バックナンバーを掲載しています。

新潟市民病院 ふれあいひろば

検索



発行元：新潟市民病院 広報委員会
新潟市中央区鐘木463番地7 Tel 025-281-5151